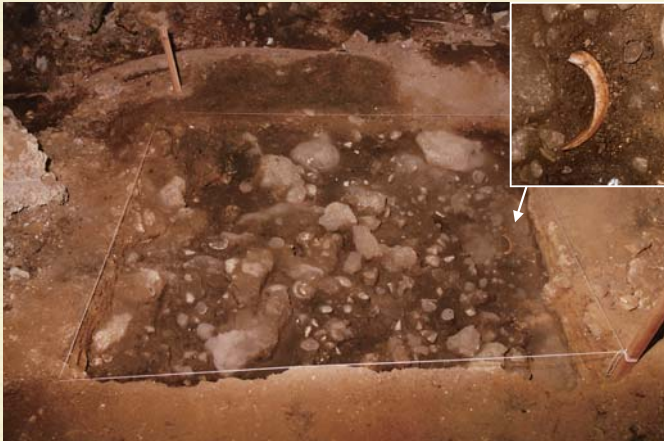


チヂフチャー洞穴遺跡

この遺跡は、昭和 54(1979) 年に遺跡分布調査で発見されました。その際に沖縄貝塚時代の土器や貝殻が採集され、岩陰墓も確認されるなど貴重なものとして、昭和 61(1986) 年に市の史跡に指定されています。

この遺跡の特徴は、洞穴の利用方法にあります。1500 年前頃は住居に、300 年前頃は墓に、沖縄戦の際は避難壕に利用されています。



▲洞穴内部の発掘状況とイノシシ犬歯出土状況



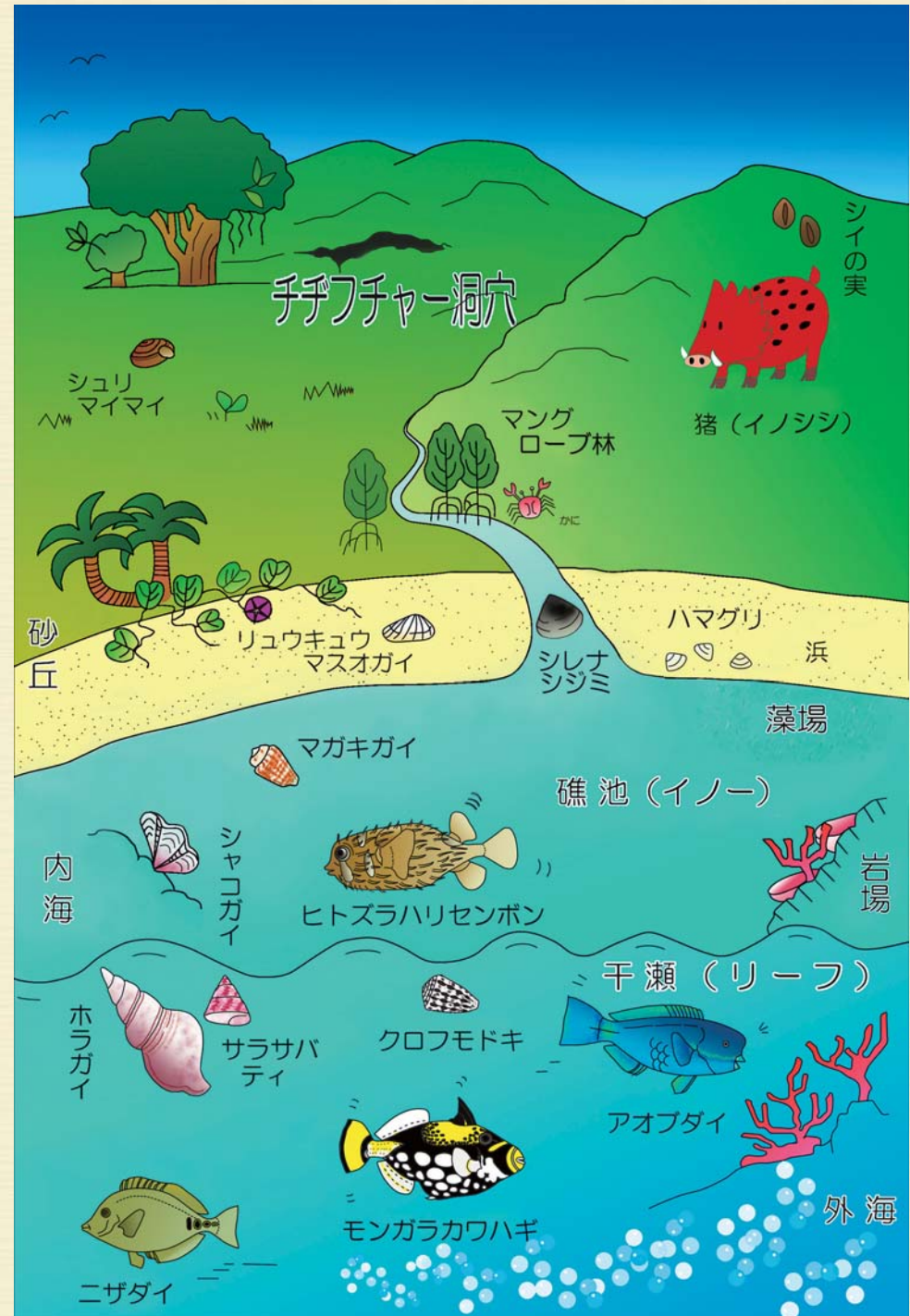
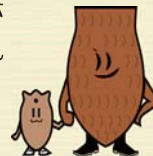
▲土器などの道具や貝製の装飾品、食料にした貝や魚、イノシシなど

沖縄貝塚時代後期



1500 年前頃（沖縄貝塚時代後期前半）の県内の遺跡をみると、魚や貝などが容易に採取できるイノー（礁池）近くの砂丘地に多く立地しています。ところが、この遺跡は標高 55 m のやや内陸部にあります。イノシシを狩る際の仮住まいだったのか、ここに遺跡がある理由はよくわかっていませんが、当時の社会や人々の暮らしを考える上で貴重な遺跡といえます。

また、出土した土器の中に 1 点だけですが爪形文土器（7000 年前）も見ついています。この土器もなんらかの洞穴利用を示す証拠かもしれません。



▲出土遺物から想像する当時の生活環境